

## 東日本大震災被災

### 福島県南相馬市への交流会参加レポート

日 時： 平成 25 年 11 月 2 日（土）

行き先： 福島県南相馬市 鹿島中学校体育館

東日本大震災の際に新潟県燕市へ避難された方々の施術ボランティアを当会でさせて頂きましたが、この度、新潟県燕市防災課より当時ボランティアを行った団体として当会がお誘いを受け、福島県南相馬市での交流会事業に参加して参りました。

当日は総勢 90 名がバス 2 台で朝 6 時に新潟県を出発し、北陸高速、磐越高速、東北高速を乗り継ぎ福島県二本松 IC から通行止め区域や一般車進入禁止区域を迂回しながら県道等の長い峠道を越え、5 時間後の午前 11 時に南相馬市に到着しました。日本海側から太平洋側への長距離横断となりました。



交流会場の鹿島中学校体育館の外では桜井南相馬市長を始め当時避難されていた内の 60 名余の方々が待っておられ、万雷の拍手と笑顔で迎えて頂きました。『東日本震災ボランティア活動報告』内にあります引き津波から自力で戻ってこられた高齢の漁師さんにその後の体調面などお伺いしたいと思っておりましたが、市職員さんから今回はご都合で参加されていらっしゃらないとお話がありました。

交流会で特に強く感じたのは震度6弱もの大地震による家屋の損壊や津波があり、家族に行方不明の方がおられた中で放射能による避難指示を受け、全く見も知らなかった燕市へ手荷物一つでバスに乗せられ逃げざるを得なかった皆さんの避難がいかに大変であったかという事です。心細かったと思います。そんな中で我々が施術のボランティアをさせて戴いた事は当会として貴重な体験という財産を頂戴した事になったと感じました。



復興庁発表によれば平成25年10月現在、いまだに東北被災地から約28万人の方々 nationwide に避難されています。その殆どの皆さんが帰りたくても帰れない状況かと思えます。切ないことです。

交流会は午後2時に閉会し、地元の皆様から手を振って見送って頂き体育館を後にし、帰路、市内において津波被害の自動車や損壊家屋、瓦礫の山という現実を目の当たりにしま

した。今後も私達一般社団法人身体均整師会で何が出来るのか長い目で見させて頂かなければと実感した交流会参加でした。

(以上、会員太田雅雄)